

NCS

Magazine

2022 August japanchess.org

Interview (後編)

FM 青嶋未来

オリンピック
2022 速報

#3

特集:

ジャパンチェスクラシック2022
Tu全勝優勝の軌跡



NCS Magazine # 3 August 2022

Tournament Report

03 特集

ジャパンチェスクラシック2022

Tu全勝優勝の軌跡

14 速報：FIDE Chess Olympiad 2022

21 FIDE World School Chess Championship 2022

第10回九州チーム選手権 in 伊万里

Interview

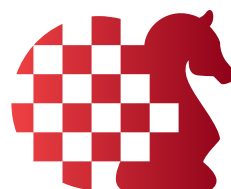
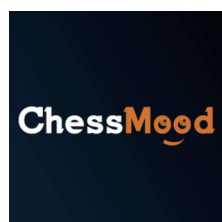
11 FM 青嶋未来さん（後編）

23 武藤勇宏さん

20 チェス大会 in アメリカ NO.61 上杉賀子

25 タクティクス・ジム 03 ピン（1） 山田明弘

27 Chess in Japan Scott, Tyler



National
Chess
Society of
JAPAN



Tournament Report

大会レポート

特集： ジャパンチェスクラシック2022



Tu全勝優勝の軌跡

神田大吾

2022年7月15日から18日までの4日間、東京都北区の「北とぴあ」を会場に、ジャパンチェスクラシック2022が開かれました。7Rスイス式、90分+30秒/手で行われるNCS・FIDE公式戦です。折も折、新型コロナの第7波が襲来し、感染防止対策が5項目にわたって強化(※)される中での開催となりましたが、上は74歳から下は10歳まで、チェスを愛する53名が一堂に集まり、対面での真剣勝負を楽しみました。NCSのYouTubeでは上位3ボードが中継され、篠田太郎とゲストによる解説が配信されました。

※ 1) 毎朝の受付時に検温実施後、所定の「健康セルフチェックシート」に記入して提出 2) 試合後の選手を含め、会場での見学の禁止 3) マスク着用の厳格化(鼻を覆うこと。2回目の注意でペナルティ、3回目で失格) 4) 会場や控室での局後の検討の禁止 5) 大会期間中は(同居家族以外での)会食の禁止

UR強し 7月15日 1R

初日は金曜午後の1試合です。曇天の中、傘を手にした選手たちが集まって来ます。会場は北とぴあ16階で眺望が良く、写真を撮る人の姿があちこちで見られました。なごやかな雰囲気のまま開会式が始まり、主催者NCS理事の挨拶の後、8月のオリンピックに参加する4名(Tran, Thanh Tu、小島慎也、



Tran, Thanh Tu

小林厚彦、小島なつみ)と、6月にパナマで開催されたWSCC (World School Chess Championship 2022)に参加した2名(岡部悠真、奥野凜音)が紹介され、参加者からの拍手が会場ホールにこだましました。

午後3時に第1ラウンドが始まると、いつものことながら会場の空気はピリリと引き締まります。静寂の中、時計を押す音だけが響く緊張感。いつしか外は大雨となり、窓一面に水滴が広まって外の景色が見えなくなりました。盤上没我の時間が始まりました。

開始から3時間が経過した夕方6時の時点でなお半数の12ゲームが進行中という熱い戦いが繰り広げられ、7時を回ってようやく全局終了。アップセットが目立ち(レーティング上位負けが4局、ドローが1局)、「UR強し」を印象付ける結果となりました。

貫禄勝ち 7月16日 2Rと3R

大会2日目は朝から霧雨です。梅雨明けは本当なのかと疑いたくな

る雨模様の一日となりました。

10:00に2R開始。上位ボード(B)は1Bが(白)Tu—北神匠、2B(白)Nguyen, Tuan Anh—青嶋未来、3B(白)小島(慎)—長瀬航太。3局とも上位者が時間を多く使う展開となって耳目を集めました。他に4Bが岡部—大多和優斗の新旧ジュニア対決、6Bが小島(な)—小林の男女オリンピック代表対決、18Bが福田豊秋—ロールストンダニエル、大会最年長と2番目の年少者との、年の差61歳の対戦など注目のゲームがあちこちで展開されました。全局が終わったのは14:22。終わってみれば、上の3ボードはいずれも上位者の勝ちとなりました。

そして午後の第3R、小林が一番乗りで入室し、ペアリング発表前から1BでTuとの対戦を予想し早々と着席しました。闘志満々です。14:40にペアリングが発表され、休憩から戻った選手たちが続々と着席します。1B(白)小林—Tu、2B(白)青嶋—中村尚広、3B(白)野口恒治—小島(慎)、全てレーティング2000超の強豪同士の組合せとなりました。大会はいよいよ佳境に入ります。



このラウンド開始前にクラウドファンディングの案内がありました。オリンピアドのコーチ契約料等の諸経費にご支援を、のお願いです。同時にNCSのHPやTwitterでも告知されました。

15:00定刻に3Rゲーム開始。2時間後の17:00にYouTubeで解説が始まったとき、上位3ボードは熱戦が続いていました。特に1Bはエンジン評価は小林有利で、時間も20分多いので、これは、と大注目でしたが、18:00に2Bが終わり、18:30過ぎに野口0-1小島（慎）、小林0-1Tuが立て続けに終了。Tu、青嶋、小島（慎）、またしても上位3人の貫禄勝ちでした。会場で残る最後の1ボード、14B（白）岡部一川村卓人が終わったのは19:05でした。4時間を超える激闘。お疲れ様でした！

実力者の証明 7月17日 4Rと5R

大会が3日目に入り、クライマックスを迎えます。全勝者同士の直接対決です。

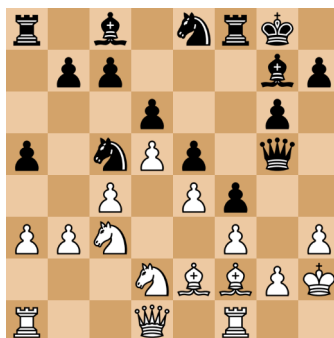


図は第4Rのトップボード、（白）Tu—小島（慎）、11.Qf3 b6まで。この局面でTuの手が止ま

り、27分考えて12.0-0と指しました。将棋の大山康晴十五世名人の名言に「しろとは、悪くってから考える」があります。ここはその正反対で、未だ中盤の入り口で形勢互角の、手が広い局面で、持ち時間の3分の1を投入し、じっくりと、先の先まで考えてから着手する。石橋を叩いて渡る慎重さは実力者の証明と言えましょう。

この後、複雑で難解な戦いが繰り広げられ、黒が「たった1手クイーン的位置を間違えてしまいました」（小島（慎））ブログBlog (shinyakojima-blog.blogspot.com) ために形勢が開き、58手まででTuが勝ちました。並んだボードの（白）山田弘平—青嶋がドローとなり、Tuただ一人4戦全勝で単独トップに立ちます。後から振り返れば、Tuはこのまま最後まで先頭を走り続けてゴールインすることになります。

午後の第5R、注目の1B、（白）青嶋—Tu、図はその16.Kh2まで。



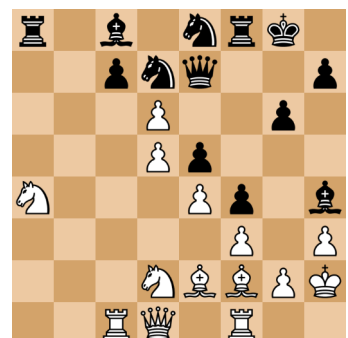
白が盤面左側（Q側）で盛り上がり、黒はK側に攻撃部隊を展開して白のキングを狙う。どちらの攻めが早い競争するという、キングズインディアンならではの戦いとなりました。そして

16... Nd7 攻めるのではなく、攻められる前に先に受ける手をTuは選択しました。柔軟な指し回しに揺さぶられ、白の指し手が乱れます。

17.b4 b6 18.Rc1 「ここは18.Na4が正着でした。当初はそのつもりでしたが、次にc5 bxc5 bxc5としても早い攻めがないので断念しました。しかしながら、黒がNdf6~Nh5~Ng3としてきててもRe1くらいで効果的な攻めになりません。着実な攻めを選ぶべきでした。」
(青嶋ブログ[ジャパンチェスクラブ2022\(3日目\)|ミライの棋譜ノート\(ameblo.jp\)](http://japanchessclub2022(3日目)|ミライの棋譜ノート(ameblo.jp)))

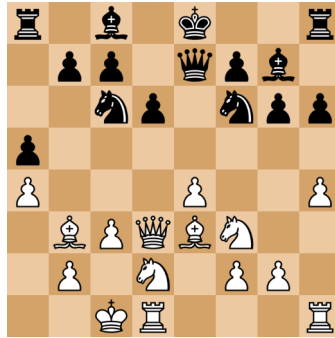
18...Qe7 「黒はキングサイドを攻めてくるものだと思っていたので、c5を守るこの手を軽視していました。」（青嶋）

19.Na4 axb4 20.axb4 Bf6 21.c5 bxc5 22.bxc5 Bh4 23.cxd6





中村尚広



12...0-0 盤面中央からキングを遠ざけるキャスリングは当然の一手に見えて「軽率でした。局後に小島さんに指摘されましたが、13.h5とされると、黒、ピンチでした。」(大塚)しかし実戦は

13.e5 ビショップの斜線を絡めた好手に見えて、読み抜けがありました。

13...Nxe5 14.Nxe5 Qxe5 15.Qxg6 Bf5 攻められている黒にピタリの切り返しがあり、形勢が大きく黒に傾きます。以下**16.Qg3 Qxg3 17.fxg3 Ng4**から白は防戦一方となり、48手で大塚の勝ち。Tuを追う小島(慎)にとって、痛すぎる敗戦となってしまいました。

こうして5試合が終わり、1位は5ポイント(p)のTu、2位が4.5pの大塚、3-5位が4pの大多和と山田(弘)と若森毅士、6-13位に3.5pの青嶋ほか8人となって最終日の2試合に臨むことになりました。Tuの首位は揺るぎませんが、大塚とは0.5差なので、明日の直接対決が大注目です。なお、Tuはこの日の2勝でLive rating(1局毎に計算したレーティング)が2400を超え、IM取得条件の内の一つを満たしました。これもまた

実力者の証明と言えましょう。

全勝優勝

7月18日 6Rと7R

曇天の最終日。宿泊先を引き上げ、大きなキャリーバックを引いての来場者もちらほら見られました。前日までより30分も早い開始でしたが、選手の皆さんは早目に集合。加えて、毎日実施の「健康セルフチェックシート」も最終日まで、提出漏れも記入漏れも一つも無しで、全員提出。素晴らしい!

9:30に全員が着席して6R開始。1B(白) Tu—大塚は**1.Nc3 a6**で始まりました。変わった手に、変わった手を返す。若武者らしい潑刺とした指しっぷりです。

2.g3 d5 3.Bg2 d4 4.Nb1 e5 5.d3 Nc6 6.c3 Nge7 7.Nf3 Be6 8.e3 dxe3 9.fxe3 Qd7 10.d4 f6 11.e4 exd4 12.cxd4 0-0-0 13.d5



キャスリングを済ませた黒に対し、白のキングは初期位置のままという対照的な局面、ポーンによるフォークが刺さったここが最初の分岐点でした。

13...Bh3 「13...Nxd5 14.exd5 Bc5!

白がポーンを取りこみ(**23.cxd6**)、放置すればクイーンを取られてしまうので、黒は取り返す一手かと思いきや、

23...Bg3+ 「23...cxd6の一手だと思っていたので驚きました。」(青嶋)

24.Bxg3 fxg3+ 25.Kxg3 cxd6

チェック(Bg3+)で「一本、効かす」手、intermediate moveです。1ポーンを捨てる代償に白キングを危険地帯に釣り出してから、ゆっくり取り返す。押したり引いたり、見ごたえのある攻防が繰り広げられた末、39手まででTuが凱歌をあげました。

この第5Rでは3Bの(白)小島(慎)—大塚翔生も大きな勝負でした。大塚はNCS公式大会の経験は一年足らずですが、将棋五段の棋力をバネに、急速にレーティングを上げて来ました。図は**12.a4**まで。次の一手が明暗を分けます。

大塚翔生

なら黒優勢でしたが、気づきませんでした。」(大塚)

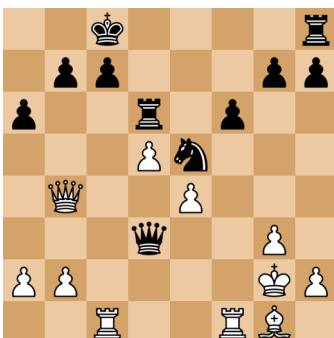
14.0-0 Ng6 15.Be3 Nce5 16.Nxe5
Nxe5 17.Qd4 Bxg2 18.Kxg2



駒交換が進み、白キングの周りが薄くなったところが、第二の分岐点でした。

18...Qb5 「18...Qb5から19...Ng4が微妙で、20.Bg1と引かれて効果がありませんでした。局後にTuさんから18...h5を指摘されました。そうすべきでした。」(大塚)

19.Nd2 Ng4 20.Bg1 Bd6 21.Nc4
Ne5 22.Nxd6+ Rxd6 23.Rac1
Qd3 24.Qb4



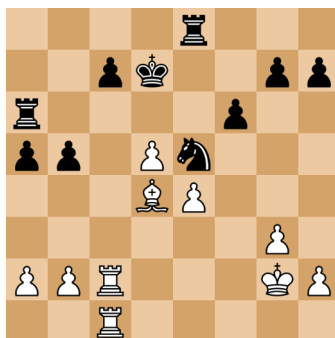
黒に一失あってからは、Tuはさすがの指し回しで盛り返し、主導権を握ります。白の24.Qb4は単にQ交換を避けただけでなく、次に



25.Qxd6、c1ルークの縦ピンを利用して黒のルークをタダ取りしようという恐ろしい狙いを秘めています。しかし、

24...a5 黒は平然とポーンを突きました。ポイントは、Qxd6でもQxa5でも白Qの位置がずれるので25...Qxe4+ 26.Kh3 Qg4+からパーペチュアルチェックです(26.Kf2?? Ng4#)。対戦相手の読みを信じず、狙いの更に上に行く手を短時間で見つけて、さらりと指す。「(大塚さんは)強いですねえ」とYouTube解説の篠田を感嘆させた手でした。

25.Qa4 b5 26.Qc2 Qxc2+
27.Rxc2 Kd7 28.Bc5 Ra6 29.Bd4
Re8 30.Rfc1



劣勢の中、黒は渾身の粘りを見せて、白に決め手を与えません。白が2

個のルークを連結させてc7のポーンに狙いを定めたこの局面が、黒にとって最後のチャンスでした。

30...Rc8 「30...c6がラストチャンスでした。以下総交換になったポーンエンディングが負けかと思ってしまいましたが、実際は総交換になればドローでした。」(大塚)

白から31.Bxe5と取る手が見える。白がdxc6と取り込めば、チェックでキングに当たって後手を引く。しかしc6に残ったポーンは後から回収できる。総交換したポーン・エンディングはドロー、と、そこまで読んで30...c6と突くのは至難の技。持ち時間が数分しかない終盤戦ではなおさらです。勝利の女神はついに微笑む相手を決めました。

31.Bxe5 fxe5 32.Rf1 Ke7
33.Rf5 Rf6 34.Rxe5+ Kf7
35.Rh5 Rd6 36.Rxh7 c5
37.Rh4 c4 38.Kf3 b4 39.Ke3
Rdd8 40.Kd4 b3 41.Rf2+ Kg6
42.a3 Rc7 43.Kc3 a4 44.Rhf4
Kh5 45.Rf7
1-0



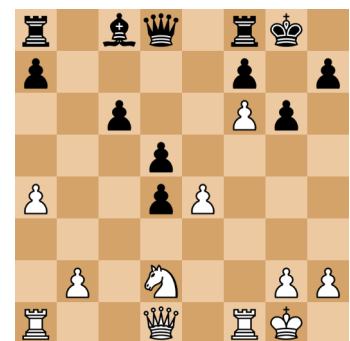
山田弘平

32.a4 ? 「タイムトラブルによるミス。バックランクメイトを消しつつ将来のQb5+などを作るアイデアだが、32.Rd5 Rcx d6 33.Nxc5 Rd8まで進めてから34.a4!が正しかった。以下、34...bxa3 35.Na4!と進み、難解だがお互いにパーフェクトアルチェックが振りほどけない状況になりそう。ここからの黒の正確さが勝負を決めた。」(山田(弘))

32...bxa3 33.bxa3 e4 34.Ka2 e3
35.Re2 Rcx d6 36.Rb1 Rd1
37.Nc1 Qxb1+ 38.Kxb1 Rb7+
39.Qb3 Rxb3+ 40.cxb3 Bg5
0-1

途中で色々あれど、終わってみれば、勝っている。Tuが底力を十分に発揮して土つかず、全勝優勝を遂げたのでした。

2B (白) 大塚—青嶋はシシリアンのロソリモから、16.Bxc6 bxc6 17.f6と進みました(図)。

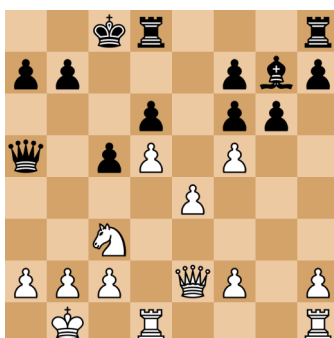


「16.Bxc6から17.f6とポーンを埋め込む構想はまずまずとっていましたが、実際はかなり悪かったようで、大局観が悪かったです。青嶋さんの受けが正確で、そのまま押し切られてしまいました。」(大塚) 詳しいゲーム解説は青嶋ブログ

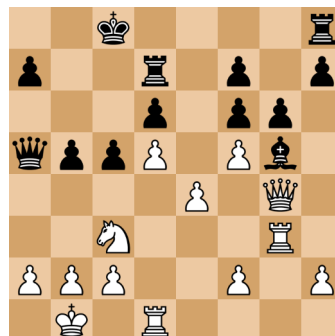
大塚の健闘も一歩及ばず、Tuが6勝目を上げました。しかし2Bで山田(弘)が若森を53手で振り切り、5pに到達。Tuと1差をキープして最終局に臨みます。その一方、3Bの大多和は中村に対し79手の激闘の末に敗れ、首位戦線から脱落しました。

最終7Rスタート時点の順位は、1位が6pのTu、2位が5pの山田(弘)、3—7位が4.5pの青嶋、小林、中村、大塚、野口、8—12位が4pの小島(慎)、大多和、黒田裕之介、若森、長瀧。この12選手がオープン5位までの入賞を競いました。

図は1B (白) 山田(弘)—Tu、16.f5まで。g7のビショップを封じ込めて、白が優勢です。



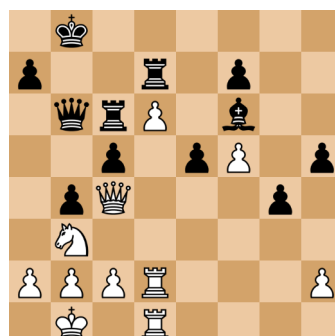
16...Bh6 17.Qg4 Rd7 18.Rhg1 b5
19.Rg3 Bg5



「ここが最も黒が危なかった瞬間。20.e5! dxe5 21.Ne4で白が優勢だった。」(山田(弘))

20.f4 h5 21.Qf3 Bh4 22.Rg2 b4
23.Ne2 g5 24.e5 「結果的にこのタイミングのe5付きが上手いかなかったのが白の誤算だった。24.c3のように息長く指すプランが勝った。」(山田(弘))

24...dxe5 25.fxe5 fxe5 26.d6 Kb8
27.Nc1 Qb6 28.Rgd2 g4 29.Qe4
Bf6 30.Nb3 Rc8 31.Qc4 Rc6





オープン入賞者左から山田弘平、野口恒治、Tran, Thanh Tu、青嶋未来、小島慎也

グ**[ジャパンチェスクラシック](#)**
[2022\(4日目\) | ミライの棋譜ノート](#)
[\(ameblo.jp\)](#)をご覧ください。今年
 の全日本チャンピオン青嶋が格の
 違いを見せて快勝し、2位に入賞し
 ました。大塚の捲土重来を期待し
 ましょう。

3Bは(白)野口-中村、駒が乱
 れ飛ぶ激戦の末、野口(2017年度
 全日本選手権者)が勝ち、3位入賞
 を果たしました。

夜の7時から閉会式が行われまし
 た。ゲーム中はまなじりを決した
 真剣勝負も、ゲームが終われば、
 同じ趣味を持つ仲間同士です。入
 賞者、そしてオリンピック出場
 選手からの挨拶に対し、温かい拍
 手が巻き起こりました。選手の皆
 さん、お互いまた近い内にチェス
 大会でお会いしましょう！

希望の光

いつの大会でも、UR(レーテ
 ィング未定)の参加者がいらっしゃ
 います。神田は今回、2人の方と対
 戦しましたが、これまでとは違う

手ごたえを感じました。

URの選手と言えば、かつては学
 校の部活で普段から指しているゲ
 ームそのままに、序盤からポンポ
 ン指してくる人ばかりでした。早
 見え早指しで、ツボにはまると
 「無理が通って道理が引っ込む」
 成功を収めますが、こちらが丁寧
 に対応すれば、あっさり土俵を割
 ってくれる人が多かった印象です。

しかし、今大会のお2人は違いま
 した。聞けば、まわりにチェスを
 する相手がいないので、ネット対戦
 のみ。対面でゲームするのは今回が
 初めてだそうです。お2人とも、序
 盤から少考しながら慎重に駒組み
 します。中盤の難所で、手が3択の
 局面では、じっくり時間を使って考
 え、正着を選びます。そのため、エ
 ンディングの最後まで接戦となりま
 した。結果はどちらも神田が幸い
 しましたが、違う結果になっても驚
 きはなく、仮に負けても番狂わせと
 は言えなかった気がします。大会の
 結果一覧表を見ると、他のURの選
 手が幾つもアップセットを収めてお
 り、さもありなん、と気を引き締め
 た次第です。

これは、もしかするとコロナ禍

の、意外なメリットかも知れませ
 ん。対面でチェスができない埋め
 合わせに、ネット対局は花盛り。
 安価な解説ビデオ教材も多く、自
 室にしながらチェスの技量向上が
 できる時代になったのです。見か
 けはURでも、力を持った選手が続
 々と参入して来れば、常連メンバ
 ーを大いに刺激することとなり、
 全体のレベルアップに繋がること
 でしょう。コロナは後世に長く傷
 を残す災厄ではありますが、禍を
 転じて福と為すかのような、ほん
 のり明るい希望の光を垣間見た気
 がしました。

ジャパンチェスクラシック

◆ オープン

1	Tran, Thanh Tu	7.0/7P
2	青嶋未来	5.5
3	野口恒治	5.5
4	小島慎也	5.0
5	山田弘平	5.0

◆ U-1800

1	黒田裕之介	4.5
2	武藤勇宏	4.5
3	奥野凜音	4.5



U-1800入賞者左から武藤勇宏、黒田裕之介、奥野凜音

大会こぼれ話

～同士討ちは記録の母～

2011年10月9日のジャパンオープン第6R、(白)真鍋浩一篠田太郎は161手で真鍋の勝ち。現在のNCS理事と動画配信部長とが対戦したこのゲームは日本での公式戦の(おそらく)最長手数ゲームです。

今年のクラシックの第3Rでは、NCSの別のスタッフ同士でこれとは逆のゲームが生まれました。(白)神田大吾 [マガジン編集部] 一向井裕之 [ウェブサイト部] は開始10分、5手で白がリザイン。公式戦の(おそらく)最短ゲームでしょう。

1.d4 Nf6 2.Bg5 (Trompowsky) Ne4
3.Bf4 c5 4.d5 Qb6 5.b3?? Qf6 0-1



チェス・コレ!



小林厚彦さん

オリンピアド2Rで日本中が痺れた大金星を挙げた、小林厚彦おおお! クラシックの会場に、ご本人によると勝負服で現れました。表地に合わせた茶系の裏地はチェス柄。



これは和服に見られる裏勝りの手法です。脱ぎ着する時のみチラリと見える華やかな裏地は、究極の遊び心。さすが日本チェス界のおしゃれ番長であります。



Interview

インタビュー 後編

青嶋未来さん

チェスでは挑戦者の立場 勝敗にこだわるより ベストを尽くそうと思っている

あおしま・みらい

1995年生まれ、静岡県三島市出身。麻布高等学校卒業。6歳の時父親が購入してきた本で将棋を覚え、小学生の頃から頭角を表す。チェスを始めたのは2014年頃で、翌2015年の全日本快速選手権では初参加で初優勝。2019年の全日本チェス選手権で初優勝し、2022年の同大会で優勝に返り咲いている。



将棋とチェスの両方を経験している青嶋さんだからこそ、実感することは決して少なくないはずである。座学より実戦を重んじ、新しいことに挑戦するのも厭わない彼だから、未だかつてない視点でチェス界を切り開いてくれるのではないだろうか。選手としてはもちろん、それ以外の場所でもどんな道を歩いていくのだろう。

全日本やオリンピックアードについて語ってくれた前号から続く、後編をお届けしたい。

チェスを始めたのは、新しいことに挑戦するのが好きだからですか？

はい、そうですね。新しいことに挑戦するのが好きです。

それはいいところでもあり、悪いところでもあり、という。趣味がどんどん増えていくので。でもそうでなければチェスをはじめること

はなかったから、難しいところではあるんですが。結構いろいろと新しいことに興味を持つタイプではあります。

将棋をしているからチェスができると思われている？

まあ、そういうのはあるでしょうね。将棋に一番似てるのはチェスでしょうし。

そういうのはあるでしょうが、結構言われて困る質問は「チェスをやったことで将棋にどういい影響が出ましたか」というものです。すごくよく聞かれるんですけど、毎回「ん？」ってなります。逆だったらわかるんですが。将棋をやったことが、どうチェスに活かしたかというのだったら。チェスを将棋の仕事にどう活かしているかというのはおかしいというか。

仕事の為に趣味を始める人もい

ますが、自分は逆で、将棋で得た経験を他のことに活かしたいと考えています。

海外ではサッカーや野球のようにチェスでもリーグ戦を行っている国があり、強いチームはプロの選手を集めたりもします。仮に日本でリーグが行われたら参加してみたいですか？

やったら絶対盛り上がるだろうし、絶対面白いですよね、それ。

将棋界ではリーグのようなものはあるんですか？

アマチュアのレベルではそのようなリーグ戦があります。社団戦とかそういう名前です。かなり大きな規模で行われているので、チェスでもそのような大会があると盛り上がると思いますね。面白いと思います。

将棋では「推し」の棋士や、アイドル的存在の棋士がいますが、チェスにもそういう存在が必要だと思いますか？

うーん。将棋はプロの団体があるからそういう扱いができるのかもしれないですね。

チェスは個人のプレーヤーなので、そういう取り上げ方は難しいという気はします。

青嶋さんは、多分チェス界では一番ファンの数が多いプレーヤーかと

将棋やってるからかなと（笑）

ファンに違いはないです

そうですね、応援していただけているのは嬉しいことなので。応援があるから頑張れる。

自分は将棋の棋士だからこそチェスの大会で注目されるので、最初に出たときから簡単に負けてはいけなかったと思っていました。ある程度結果を残さないといけないと。それはプレッシャーではあるんですけど、見てくれる方がいるからこそ頑張れるとは思っています。

以前は応援する立場の気持ちは、全くもってよくわからない感じだったんです（笑）

でもここ最近、一生懸命やっている人を応援したくなるのが人間なんだなということ学びましたね。

将棋とチェス、文化的にも違うところが多いですね

今度ドリームアカデミアさんで行う同時対局には、将棋のいいとこ

ろを取り入れようと思っています。チェスの同時対局は普通検討戦はしないじゃないですか。

将棋の検討戦はチェスのように一手ずつまわることではなく、好きなときに指せるので、進行もばらばらになることがあるんです。せっかくお客さんにお金を払って来てもらっているから、チェスでもポイントやアドバイスをあげられるといいのかなって。

青嶋先生は「やさしくない先生」なんだと思っていました（笑）

ああ～（笑）それはプロになったばかりの頃、指導対局で普通に負かしていたのが有名になったせいですかね（笑）

将棋では、プロは緩めておくみたいな。ある程度強い人には勝ちに行きますが、ライト層の方には気持ち良く指してもらうことが多いですね。ただ、将棋にはハンデがあるから、また少し変わってくるのかなというのがありますね。

これと同じことをチェスの同時対局ですると、ハンデがない分、緩めるとおかしくなると思う。その分、代わりに検討はしたいなど。

チェスは競技としての側面が強く、将棋だとサービスというか、そういう一面もあるからでしょうか。

チェスの同時対局でお金を払って参加したとしても、お客さんという感覚は持ったことは...ないです

将棋は、指導対局というサービスを受けている感覚なのかもしれないですね。

チェスの同時対局をする場合

は、そのような感覚に合わせていけないんじゃないかとは思っています。

将棋とチェスの両方を知っているからこそ、わかることですね

これまでに同時対局をしたのは1度しかありません。

受ける側としては何回か。Giriとの対局、それと、何年前に日本に中国のGMが来た時。Ni Huaでしたか。ジャパンリーグの大会終了後に34名の参加者を相手に同時対局が行われました。

勝ったのは青嶋さんを含めて2名だけです。勝とうと思って臨みましたか？

勝とうという気持ちはないですが、いい試合ができればいいなという感じですか。

将棋のプロをしているがゆえに、勝敗に対してはドライになっている部分があると思う。普通なら勝つてやるぞという気持ちで挑むと思うんですが。

相手が強いことをわかっていると、なんていうんですかね、何が何でも勝つというより自分の力が出せばいいなと。そこはやっぱ、他の人とは違うかもしれません。

普通なら強い相手を前にすると力んだり、自分の実力以上を求めたりするということ？

まあ、そうですね。同時対局だからいい勝負になるんでしょうけど。

でもFIDEの公式戦で強いプレーヤーにあたって、勝ちたいという気持ちはあまりないというか。逆に

向こうから考えてみると、力の差から当然勝たないといけないところですから。

それに対しては、自分はベストを尽くすように考える方がいいのかなと思いますね。

そして自分のことだけではなく、相手からどう見えているかは考えます。勝負の心理としてあるはずなので。

どう見られているかを考えて、何か変えることはありますか

自分がどんなプレーヤーに見られているかはわからないですけどね。

例えば試合中、いちいち表情に出すとマイナスになるんですよ。あんまりそういう人はいないけど、将棋ってそういう人が多いんですよ。結構、表に出るんです。

チェスでも時間が少なくなって切迫してくるとそういう癖が出るというか。この人、慌ててるなとか、そういうのが結構わかる。癖が出ないようにするのは無理なんですよけど。

技術がすべてと言われるかもしれないですけど（笑）人間同士の試合なので、人間的なところもやっぱりあると思いますね。

いつも淡々と指されているのはそういう技術だったんですか（笑）

将棋をやっているうちにそう思ってきたのかもしれないし、もしくは何年も勝負しているからこそ、ドライになっている可能性もあるんですかね。



対局中、内心慌てたりすることもありますか

ありますね。それはやっぱりあります（笑）

何か見落としをしをしたり、時間がなくて意表を突かれたりすると。でもそれを相手に見せると不利になるから、そこは気を付けてはいますけどね。

逆に、思ったことが全て表情に出る青嶋さんも見てみたいですよ

ははは（笑）確かに。

普段気を付けていらっしゃるから、ギャップを見たら驚くかも

大会でポイントを落とした瞬間はものすごい落ち込み方をしてるんで（笑）

逆に、これは将棋の文化でもあります。勝って喜びを現すことはなくなりました。勝ってガッツポーズをするのはまずい。相手への礼儀を重視しているから、そう

いうことはしない文化なので。勝って喜びを表現をすることはなくなっちゃいましたかね。

でもチェスで自分より強いプレーヤーに勝った時は嬉しいです。表には出ませんが。

最後に、読者の皆さんにメッセージを

これからはドリームアカデミアさんでチェスの普及をしたり、これまでとは違ったチェスとの関わり方を始めます。

プレーヤーとしてもまた日本チャンピオンに戻れたので、もう一度上を目指したいという気持ちが出てきました。まだ隔離期間もあるかもしれませんが、状況がよければ海外大会に行ける可能性もあるので、また上を目指してですね。応援してもらえるようなプレーヤーを目指したいと思っています。

Special Report

速報

FIDE Chess Olympiad 2022

オリンピックに燃えた夏！

この夏、世界中のチェス界を熱くしたオリンピック2022チェンナイ大会。

7月28日から8月10日までの開催期間、各国から集まった選手たちが11ラウンドを戦い抜きました。本大会はオープンチームが188、女子が162と過去最高の参加チーム数となりました。

オリンピックはFIDEと開催国が主催する国際団体戦で、2年ごとに開催されています。本来2020年にロシアで開催される予定が新型コロナウイルスの影響により2022年まで延期に。ところがロシアのウクライナへの開戦に反対するFIDEの考えを受け、インドのチェンナイへと開

催地が変更されました。今大会は2018年以来4年ぶりの開催。2024年の第45回はハンガリーのブダペストに決定しています。

全員が揃って出国できるのかすら心配された本大会。最終的に日本チームは新型コロナウイルスに翻弄されることになりました。思ったように実力が発揮できず悔しい思いをしている選手も少なくないと思います。それでも彼らはこの夏、たくさんの感動をチェスファンに与えてくれました！その記録をダイジェストにしてお届けします。

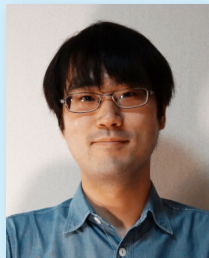
日本代表メンバー

オープンチーム（スタート時188チーム中81位） 女子チーム（スタート時162チーム中92位）

Open



CM Tran, Thanh Tu



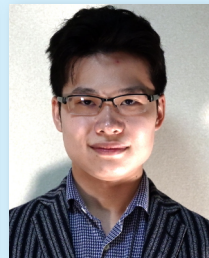
IM 小島 慎也



CM Averbukh, Alex



FM Bibby, Simon



小林 厚彦

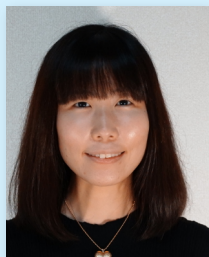


コーチ
GM Stojanovic, Mihajlo

Women



WCM 坂井 あづみ



WCM 小島 なつみ



三澤 由季



荒井 優希



三津山 六花



コーチ
GM Petrov, Marian

アイコンをクリックして
当日の配信動画へJump!

1R 7月29日

待ちに待った初戦！最終戦を除く第1から10ラウンドは、日本時間の18時30分よりスタート。

◆ オープン

対ジブチ (177位)

Tu、小島、Bibby、小林

(抜け番 Averbukh)

188の参加チームの中スタート順位が81位のオープンチームは、177位のジブチを相手に4.0-0.0の完勝！格下相手に全員が快勝し好発進しました。

◆ 女子

対スペイン (13位)

坂井、小島、三澤、荒井

(抜け番 三津山)

スタート順位が162チーム中92位だった女子は、初戦から13位の強豪国スペインと対戦。全員で力を合わせてかなりの善戦を見せたものの、0.0-4.0で敗れてしまいました。

2R 7月30日

◆ オープン

対リトアニア (81位)

Tu、小島、Averbukh、小林

(抜け番 Bibby)

強豪国リトアニア相手に1.5-2.5と大健闘！全員GMの強者を相手に、ドローを獲得した小島。そして逆転勝ちの大金星を挙げた小林の活躍に「俺たちのアツヒコ」と日本



激アツだった2Rの試合後、ホテルに帰る車中にてThumbs upで答える小林

のチェスファンから大歓声が上がりました。解説動画「[ミスを誘う勝負術！](#)」にも取り上げられたアツヒコの熱戦は公式YouTubeのアーカイブでは是非ご覧ください。

◆ 女子

対ミャンマー (133位)

坂井、小島、三澤、荒井

(抜け番 三津山)

ミャンマーとの試合は、唯一格上と対戦した荒井が敗れたものの3.0-1.0と勝ち越し。坂井、小島、三澤が今大会初白星を挙げ、これが女子チームの今大会の初勝利となります！

3R 7月31日

◆ オープン

対サウジアラビア (131位)

Tu、小島、Averbukh、小林

(抜け番 Bibby)

2RでGMを打ち負かした好調の小林は残念ながら敗れましたが、Tu、

小林、Averbukhが危なげなく勝ち星を集めて3.0-1.0で快勝しました！

◆ 女子

アイルランド (51位)

坂井、小島、三澤、三津山

(抜け番 荒井)

全てのボードに格上が立ちほだかる苦しいラウンドになり、0.5-3.5で敗北。とはいえ坂井がWIMからドローをもぎ取り一矢を報いました。

4R 8月1日

◆ オープン

対パラグアイ (47位)

Tu、小島、Averbukh、Bibby

(抜け番 小林)

この日の対戦相手はGM3名を擁し、今大会絶好調の呼び声が高い強豪国パラグアイ。小島、Bibbyがドローに持ち込んだものの1.0-3.0で敗北という結果になりました。小島は今大会2度目のGMとの対戦となり、共にドローという粘りを見せています。



6Rのウルグアイ戦でずらりと並んだオープンチーム。第1ボードのTuはGM Meier Georgと対戦し、ドローに持ち込む活躍を見る FIDE/Stev Bonhage

10-30でチームは敗北を喫しました。

◆ 女子

対フィジー (114位)
坂井、小島、三澤、荒井
(抜け番 三津山)

三澤、荒井が敗れてしまいました
が、坂井、小島の2トップが共に勝
利し、2.0-2.0で今大会初のチームド
ローという結果になりました。
ここまでの戦績はオープンチーム
が3勝3敗のイーブン、女子は2勝3
敗1分で前半戦を終え、8月4日のレ
ストデーを迎えます。

◆ 女子

対台湾 (124位)
坂井、小島、荒井、三津山
(抜け番 三澤)

スタート時の順位こそ低いものの、
どの選手も手強いと評判の台湾。
相手のしぶとさを前にして残念ながら
1.5-2.5で敗れてしまいました。
とはいえ、坂井の華麗な手順での
勝利や小島の諦めない姿勢が感動
を呼びました。

5R 8月2日

◆ オープン

対オランダ領アンティル (115位)
Tu、Averbukh、小林、Bibby (不
戦敗) (抜け番 小島)

Bibbyが出場メンバー決定後に体調
不良を訴え、不戦敗になってしまう
緊急のアクシデント。そこを他の
3選手のカバーで乗り越え、3.0-1.0
で力強く勝利をもぎ取りました！

◆ 女子

対パラオ(131位)
坂井、小島、三澤、荒井
(抜け番 三津山)

格下相手に4.0-0.0と4人全員で完
勝。荒井はこの試合で今大会初勝
利を挙げ、チームの士気も最高にア
ップしました！第1ボードの坂井は
これまで全試合に出場し、3勝1敗1
ドローと好調を維持していました。

6R 8月3日

◆ オープン

対ウルグアイ (49位)
Tu、小島、Averbukh、小林
(抜け番 Bibby)

マスターを多数擁する強豪チームで
あるウルグアイに、小島、Averbukh
が劣勢を覆そうと終盤戦まで粘るも
惜しくも敗戦。GM相手にドローに
持ち込んだTuと、好調の小林がIMか
らドローを奪ったものの、結果は

7R 8月5日

◆ オープン

対ネパール (107位)
Tu、小島、Averbukh、小林
(抜け番 Bibby)

1日のレストデーを挟み第7ラウン
ド。ついに後半戦がスタートしま
した。TuとAverbukhが早々に勝利
し2.0-0.0が確定した後、小島が終
盤戦を果敢に決めに行ったところ
カウンターを喰らい逆転負け。ただ
し小林が引き分けたため、2.5-1.5で
勝ちを納めました。

◆ 女子

対エチオピア (113位)
坂井、小島、三澤、三津山
(抜け番 荒井)

6Rで悔しくも敗戦した三澤が華麗
なタクティクスを決め、確実に勝
利を掴みます！そして、この日の

主役は若干12歳の三津山です。格上相手に互角の局面からタクティクスを炸裂させ、相手を一気に撃破します。その姿にライブ配信の解説者である東野徹男から「なんなんだ一体、強すぎるだろ この人」という、2022年 NCS流行語大賞候補の台詞が飛び出しました。大いに盛り上がった[配信動画](#)を是非ご覧ください。この勝利により2.0-2.0で2試合連続のドローという結果になりました。

クシデントが発生します。Tuが試合直前に体調不良となり出場できないことになってしまいました。その不戦敗も加え、0.0-4.0の完敗。格上相手に実力の差を見せつけられる結果になってしまいました。

◆ 女子

対キプロス (125位)
坂井、小島、三澤、三津山
(抜け番 荒井)

このラウンドを勢い付けたのは、7Rで初勝利を挙げた三津山です。中盤から相手を押さえ込み2連勝。そして訪れたチャンスを確実に掴んだ小島の活躍もあり、2ポイントをゲットします。三澤が終始互角の戦いをドローに持ち込んだところで、チームの勝ちが確定。坂井が93手まで粘るも敗戦になったものの、2.5-1.5で3試合ぶりの勝利を収めました。



ナイトがモチーフになった大会マスコット「タンビ」の意味はタミル語の「弟」

からかミスが出て小林、Averbukhがともに敗戦。勝ち点は小島のドローのみで、0.5-3.5という結果に。

◆ 女子

対パラグアイ (67位)
坂井、小島、三澤、三津山
(抜け番 荒井)

坂井、小島のツートップが序盤から苦しい展開、ドローのチャンスを活かせなかった三澤も一歩及ばず、いずれも敗戦。中盤は素晴らしい展開を見せていた三津山は、決め手に欠けて敗れ、0.0-4.0でチームは敗戦します。そして抜け番が続いていた荒井はPCR検査で陽性と診断され、これ以降のラウンドは出場停止となりました。



7Rの三津山の予想外の1手にのけぞり、名言をはく配信解説の東野徹男。ここから畳み掛けるように格上相手に勝利を掴んだ

8R 8月6日

◆ オープン

対モンゴル (45位)
Tu、小島、Averbukh、小林
(抜け番 Bibby)

モンゴルは19位の超強豪ハンガリーや、世界チャンピオンのマグヌス・カールセンが率いる3位のノルウェーとも引き分けたチームです。そのような手強い相手のラウンドでア

R9 8月7日

◆ オープン

対アラブ首長国連邦 (103位)
小島、Averbukh、小林、Tu (不戦敗)
(抜け番 Bibby)

Tuが新型コロナウイルス陽性と診断され、対局が行えずに不戦敗となりました。格下ながら予想外の苦しい展開となったチームは、連戦の疲れ

R10 8月8日

◆ オープン

対カタール (120位)

小島、Averbukh、小林、Tu (不戦敗)
(抜け番 Bibby)

前日はUAEに翻弄されましたが、小島から「完璧だった」と感想が聞けるほどの完勝！対戦相手とコンピュータ評価値が互角だったAverbukh、小林共にチャンスを見逃さず勝利を重ね、不戦敗以外は全勝の3.0-1.0で最終ラウンドを迎えることになりました。

◆ 女子

対ホンジュラス (112位)

坂井、小島、三澤、三津山
(抜け番 荒井)

格上相手に完敗した、前日の影響を全く感じさせなかった選手たち。無休の10連戦中の坂井、小島のツートップは早々に勝利します。唯一のタイトルホルダーとの対戦になった三澤はドローに持ち込み、残る三津山は持ち時間をいっぱい使い猛攻を仕掛け、勝利を掴みました。結果は3.5-0.5の完勝です！

R11 8月9日

最終ラウンドの試合開始は、いつもと違い日本時間13時30分。

◆ オープン

対マダガスカル (104位)

Averbukh、Bibby、小林、Tu (不戦敗)
(抜け番 小島)



文字通り大きな「JAPAN」を背負った背中 FIDE/Stev Bonhage

開始早々に優勢になった小林は、相手をそのまま振り切って2連勝。4R以降久々の出場となったBibbyは、序盤の劣勢を覆せずに敗北します。Averbukhは終盤に強いスタイルを発揮し、ドローに持ち込みました。帰国のためのPCR検査で8日に陽性と診断され、出場停止とされた小島が抜け番になり、Tuの不戦敗も含んだ結果は1.5-2.5。この敗戦によって通算成績は5勝6敗で大会を終えました。

◆ 女子

対北マケドニア (71位)

坂井、小島、三澤、三津山
(抜け番 荒井)

フル出場の坂井は、格上相手にドローを奪います。ツートップの一角、小島もフル出場。格上に喰らいつき終盤まで粘りを見せるも、結果は敗北。三澤は中盤戦で押し切られ残念ながら敗戦に。実況の篠田太郎に「おじさん泣いちゃいそう、こんな頑張ってるほど、5時間も粘り強く戦った三津山も負け。結果、0.5-3.5で敗れ

た女子チームは、通算成績4勝5敗2ドローに終わりました。

11の熱い戦いを終えて

この2年でチェス界は大きな変化を迎えています。ロシアの不参加で金メダル候補に名乗りを挙げたアメリカが、5位に止まったこの大会。オリンピックは「単なるチーム戦ではなく、その国の実情が反映されている」と語るの、実況解説を担当した山田弘平です。若手が育っているウズベキスタンやインドは、若手中心のチーム編成で結果を出しています。

女子の金メダルはウクライナ！戦時下、選手を集め、参加できるかどうか危ぶまれたのではないのでしょうか。世界中から惜しみない賞賛が上がりました。

さて、NCSは今回のオリンピックに先立ち、新しいことにチャレンジしました。日本チーム支援のクラウドファンディングです。



Photo:FIDE/Mark Livshitz

オープン・女子両チームのコーチの報酬、選手の事前トレーニング費用、ユニフォーム代、出場選手や帯同者の渡航費や関連費用。これらのごく一部なりとも寄付でまかなえないだろうか、と思い立ち、7月16日、CAMPFIREにて「チェスオリンピック2022出場選手を応援したい!」を始めました。スタッフ間で何度も議論を重ねて練り上げたプロジェクトではありますが、なにしろ初めての試みですから、恐る恐る、そろりそろりと一歩を踏み出した、というのが偽らざる実情でした。

それが、どうでしょう、初日から支援金額がぐんぐん積み上がり、開始からわずか3日で目標の100万円を達成したのでした!

支援金額は最終的に181万円に達しました。チェスを愛する人たち、代表選手を応援する人たちの思いが素晴らしい形になりました。皆様どうもありがとうございました!

最後にTu選手がSNSを通じて発した言葉をご覧ください

さい。

「2024オリンピックに日本代表として出たい方は、もう今から練習し始めてください! はい、今からです。」

FIDE Chess Olympiad 2022

◆ オープンセッション (参加188チーム)

1位 ウズベキスタン

2位 アルメニア

3位 インド2 (開催国特別枠で3チーム出場)

日本 107位

◆ 女子セッション (参加162チーム)

1位 ウクライナ

2位 ジョージア

3位 インド

日本 105位

NCS公式HP : FIDE Chess Olympiad 2022 特設ページ <https://japanchess.org/2022/07/chess-olympiad-2022/>

チェス大会 【文】上杉賀子

in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

息子(上杉 晋作・2007年高校1年生で全日本史上最年少チャンピオン)が2009年チェス国籍日本の最年少FIDEマスターとなり2010年全米高校選手権で優勝するまで(さらにアメリカのSenior Masterの資格となるUSCFレート2400の壁を超えるまで)参戦した、アメリカの全ての公式戦、約180大会の様子を順番に載せてみようと思います。渡米から1年半、紆余曲折を経て現地生活に馴染んできた頃、小学校のチェスクラブの案内を見かけて入部。これが始まりでした。その一年後、いよいよトーナメントプレーヤーとして出陣です。

NO.61 UMBC 選手権大会

2006年3月11日～12日
晋作(14歳)の結果：3.5P/5Game
レーティング 2081→2094
大会詳細：[USCFサイトより](#)

昨年、Sweet16を制し、特待生資格をとったメリーランド大学ボルティモア校でのOpen戦に参加。ところが同時開催の今年度のSweet16が気になって仕方がない。このあとも3年続けてこの大会に出ますが、ほとんどSweet16が行われている会場(選手以外シャットアウト)までの行き来に忙しそうで、ドアごしにのぞき、(時折、こっそり会場内に入り.....)自分の対戦は上の空のような感じてした。

晋作はチェス国籍がJAPANなのでUSCFメンバーなのに各年代の

「全米トップ100」には載せてもらえなくなったようでとても残念がっています。(4月のサプリメントは2080、先週末の大会結果で2090を越えると思います。)「トップ100 Overall (Foreign included)」になら載せてもらえるそうですがそれはレートが2350くらいにならないといけないので気が遠くなるような話です。

ところがこれは一時期だけで米国籍だと外国籍を含む分とに分けてランキングが復活し、晋作も載るようになりました。この頃2350という数字を書いています、それはもう途方もない数字なのですが、2010年にはこれを超えて最高2401まで行くことになります。

FIDE国籍がアメリカでジュニアのトップグループになれば、将来の

アメリカ代表を育てるという目的でグランドマスター主催の「無料の」チェス合宿に招待され、ますます棋力が磨かれるという特権があります。晋作はアメリカ籍ではなかったので参加資格がなく残念でした。

私の方はチェスクラブのChairも無事終了しました。コーチへのお礼のアレンジをし、そして次年度もチェスクラブ続行のためのいくつかの案をまとめて学校、カウンティへ提出しました。3月16日は中学のインターナショナルフェアで着物を着てお茶を点てました。5年連続です。長じゅばんの半襟をつけるにも老眼になりつつあり、また帯を結ぶにしても腕が後ろにまわりづらくて、正座もきついし本当に老化現象には困ったものです。



対戦する晋作



中学校のインターナショナルフェアでお点前を披露する私

Tournament Report 大会レポート

FIDE World School Chess Championship



世界37カ国から489名が参加した FIDE WORLD SCHOOL CHESS CHAMPIONSHIPが、6/11から8日間にわたって中米パナマで行われました。日本からは、岡部悠真君と奥野凜音君が参加しました。

オープニングセレモニー

FIDE President ご臨席のもと、盛大なオープニングセレモニーがパナマシティのコンベンションセンターにて行われました。天井から吊るした布に昇って力強く美しく舞う空中パフォーマンス「エアリアルティシュー」から始まり、次にTipico（パナマ独自の民謡）にのせて、ポジェラという民族衣装を来た女性が舞を披露し、そして、参加国の紹介では、日本国旗がモニターに映しだされると歓声があがりました。パナマ大統領夫人や教育長官がお見えになり、難しい世界情勢やコロナ禍でも、国をあげて世界大会を成功させようとする気概を感じました。

試合の様子

コロナ禍で試合が少なく、更新

する機会が少なかったのか？レーティングに関係なく、どの対戦相手も強かったようです。悠真君と凜音君は、偶然ほぼ同じタイミングで勝ったり負けたりしていましたので、勝った時は喜び合い、負けた時には悔しがって振り返りをしていました。悠真君も凜音君も上位ボードを経験することが出来て、いい経験になったようです。

試合外は和やかな雰囲気です。対戦相手とお土産を交換したり、一緒に食事をしたり、国際交流を深めていました。

パナマチェス協会会長 Mr. Jose Carrillo Pujolへのインタビュー

この大会で大切にしていることを教えてください

パナマで初めて世界大会を開催することは歴史的な快挙であり、

大変誇りに思います。

多国籍の子供達を受け入れるため、特に安全面に配慮した円滑な運営準備を5年前から重ねてきました。子供達にはチェスだけではなく、国際交流を通してさまざまな経験や成長してくれることを望んでいます。



日本のチェスプレーヤーにメッセージをお願いします

はるばる日本から来ているプレーヤーが、いいスコアで頑張ってい

て嬉しいです。日本には、Japanese AmericanのHikaru Nakamuraなど強いプレーヤーがいますね。日本人特有の能力がチェスに合うのではないのでしょうか？日本のチェスプレーヤーの皆さん、ぜひ世界大会に参加してください。

試合の感想

岡部悠真君



海外に1人で行くのは初めてでしたが、たくさんの方々のサポートのおかげで、コロナ禍の中、無事に帰ることができました。

大会はどの対局も熱戦になり、ぎりぎりの戦いでかろうじて勝ったり、負けのポジションを何とか逆転したり、ということが何度も起こりました。

課題もたくさん見つかり、局面の評価能力と読みの力がもっと必要だと実感しました。そんな中で6.0/9Pというスコアを取れたことは嬉しかったです。

しかし、あと1つ勝っていれば準優勝でCMのタイトルが獲れたので、とても悔しく、もっと強くなりたいと思いました。

世界中の同年代の人たちと対局ができたのは、刺激的で楽しかったです。特に、凜音君やアメリカ人のShiva君たちとブリッツをして仲良くなれたことが楽しく印象に残っています。この大会で学べたことを今後につなげていきたいです！



奥野凜音君

とてもエキサイティングな9日間でした。一番印象に残っているのは、岡部君と僕が同じラウンドでくだらないミスをして負けた時のこと。2人とも悔しすぎてクレージーになり、変な笑いが止まらなかったです。そして、これを解決するために、振り返りをしたあとロビーでチェスボードを広げ、誰かが通るのを待ち伏せして戦いを挑んだことです。

成23年に現在の場所に移転して、まだまだ新しい雰囲気建物です。また、賞品も一部提供してくれることになりました。

今回の大会には福岡、久留米、熊本、伊万里と4つの地区から6チーム、16人が参加。伊万里はクラブの会員に加えて、今年からオンライン例会に参加されている長崎県の方にも来てもらい、6人・2チームで編成しようと計画していたのですが、いつも参加しているメンバーが2名来られず、2人のチームを2つ作って6チームとしました。そうすると対戦したチームに不戦勝となる選手が2人出てくるため、その2人はチームを離れて対戦し、16人全員が同時に対局できるように工夫しました。これも腕を競うだけでなく、交流を目的とした大会だからできることだと思います。

当日は、まだ新型コロナウイルス感染症が収まらない中でしたので、対局ではNCSのガイドラインに沿った感染対策を実施しました。各テーブルには異なるデザインの有田焼の駒が並び、まるで展示会のように、それぞれ白熱した対局が繰り広げられました。駒の消毒は対局が早く終わった方が率先して行うなど、他地区の選手も協力してくれました。

3回戦が終了した段階で、前回優勝した福岡チェスクラブと、チーム熊本が3勝同士で並んだまま最終戦で直接対決、2勝1分けでチーム熊本が勝利しました。全対局で負けておらず、まさに完全優勝でした。熊本ではクラブのような集まりは行われていないのですが、個々でチェスの腕を磨いているとのこと。最終戦で敗れた福岡チ

ェスクラブが準優勝、第3位には久留米チェス同好会Aチームが入りました。

このチーム選手権を始めた頃には九州内でいくつか大会が行われていましたが、コロナの影響もあり、現在では伊万里だけが続いている状況です。大会が10回も続けられたのは、何より九州内のチェスプレーヤーが集まってくれることですが、年齢を重ねると移動するのが難しくなり、参加できなくなる方も出てきます。そうすると新しい方を招き入れることも考えていかなければなりません。ただ、当クラブで近場の小学生を対象としたチェス教室を開催していますが、ルールを学んでも中学・高校へ進学すると学業や部活動などでチェスをする機会が無くなってしまい、競技人口の拡大にはなかなかつながりません。こういった課題と向き合いながらも、引き続きチェス大会を開催していきたいと考えています。

ぜひ機会がありましたら、みなさんも一緒に九州でチェスを楽しみませんか。

大会結果

- 1位 チーム熊本
- 2位 福岡チェスクラブ
- 3位 久留米チェス同好会A



(伊万里チェスクラブ末次健太郎)

第10回九州チーム選手権 in 伊万里



佐賀県伊万里市で平成25年から「チェス・トーナメント 九州チーム選手権in伊万里」という大会を開催しています。3人1組で戦う団体戦となっており、使用する駒はNCSのスポンサーでもある「陶楽」の協力により、有田焼でできた駒を借りています。もちろん、やきもの製のチェス駒は大変珍しいのですが、それを対局に使用して行う大会もまた珍しいものとなっています。

今回が第10回となることから、記念大会にしたいと考えていたところ、後援を受けている伊万里ケーブルテレビジョン株式会社の社屋を借りることができました。平

Interview Next Generation

ユースプレイヤー
インタビュー

このコーナーでは、これからの日本チェス界を盛り上げる若手プレイヤーをご紹介します。その第三弾となる今回は、武藤勇宏選手の登場です。幼い頃から落ち着きをはらった、時間を使ってゆっくりと指すタイプだったと評判の選手です。5月に開催されたゴールデンウィークオープンではU1600の部で3位に、先月行われたジャパンチェスクラシック2022ではU1800の部で2位と健闘し、着実にその実力を伸ばしています。

Interviewer



Kanako
Kinoshita

武藤勇宏さん(14)

Muto Yuhiro



Data

武藤勇宏(むとう・ゆひろ)
生年月日：2008年7月4日
出身地：日本
チェスを教わった人：
IM小島慎也
CM Averbukh Alex
趣味：チェス、卓球、ピアノ、
テニス
学校の好きな教科：理科
将来の夢：医者
好きな食べ物：寿司

チェスとの出会いは？

僕が7歳の時に通っていたインターナショナルスクールの部活動でチェス部に入学したのがきっかけです。

今までずっとチェスを続けている特別な理由は何ですか？

チェスは思考力と判断力が求められる競技であり、こういった考えることが好きだからです。

普段のチェスとの関わり方は？

主にチェスアプリでオンラインプレイヤーと指しています。

レッスンを受けたり、様々なタクティクスの問題を解いたり、更にチェスの実況動画を見たりしてチェスの勉強をしています。

チェスの思い出

World Cadet Chess Championship 2019で2100のプレイヤーに勝利したことが強く印象に残っています。

ベストゲームを紹介！

Muto Yuhiro – Sethuraman Sandeep
World Cadet Chess Championship 2019 (2)

1. e4 c5 2. Nf3 d6 3. Bb5+ Nd7 4. O-O a6 5. Bxd7+ Bxd7 6. Re1 e6 7. c3 Nf6 8. d4 cxd4 9. cxd4 d5 10. e5 Ne4 11. Nbd2 Nxd2 12. Bxd2 Be7 13. Re3 b5 14. Ne1 Qb6 15. Qg4 g6 16. Rf3 Rc8 17. Bh6 Rc4 18. Rd1 Bf8 19. Qf4 Bxh6 20. Qxf7+ Kd8 21. Qf6+ Kc7 22. Qxh8 Rxd4 23. Rxd4 Qxd4 24. Rc3+ 1-0



個人的には、d4をつくオープン Sicilianは好まないののでBb5+を指しました。7手目のc3は、次にd4を指し、中央にポーンの厚みを置くという狙いで指しました。そして、私が最もこだわったのは13手目のRe3です(図)。



12...Be7まで

相手はまだキャスリングをしておらず、駒の展開も控えめなので積極的に攻撃を仕掛けようと考え、13.Re3と指しました。そして次に14.Ne1と下げました。これ

は、一見おかしな手に見えますが、クイーンの道を開くことによってより攻撃を強くすることができます。そこからはビショップなどの駒も攻撃に加え、そのまま押し切って勝つことができました。

このゲームはそれまでの試合の中で一番レーティングが高い相手への勝利だったので、とても印象に残り、自分へのモチベーションも高まった刺激的な試合でした。

他のユースプレイヤーに伝えたいことはありますか？

最近はユースの試合がだんだんハイレベルになってきているので、試合を通してお互いに力をつけていきたいと思います。

ユース・ジュニアプレイヤーのみなさん、チェスへの想いや、普段どのようにチェスをしているか、全国の仲間たちに教えてくれる人を募集しています！

また、みなさんの周りで紹介したいジュニア・ユースプレイヤーを教えてください！全国でチェスを楽しむ若いプレイヤーたちが少しでも多くの仲間と繋がれるように、また、大会には出ていなくても各地のクラブや家でチェスを楽しむ様子など、いろいろな形でチェスを楽しむ喜びを共有できるように。

応募・紹介はこちらまで：
japanchess.editor@gmail.com
 NCS編集部 (担当：木下)

タクティクス・ジム

03 ピン(1) Pinning

例題 △白番



ピンは相手の駒を動けなくします。

例題を見てください。例えば黒のビショップが、1...Bd5 と動くと2.Rxf8 とルークを取られます。ですからビショップはピンで止められたように動けません。

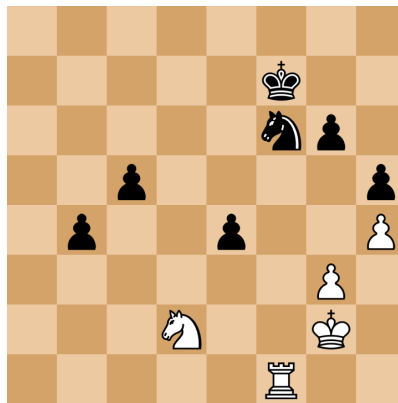
そこで白が **1.e6** とポーンで攻めるだけで黒はビショップが取られるのを待つしかありません。ナイトで取りに行く 1.Ng5 も正解です。

Level 1

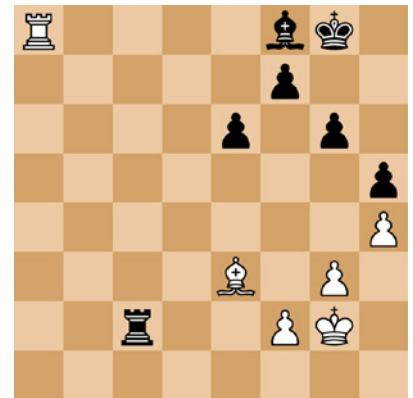
さあ、ピンで駒を取りに行きましょう！次の1手だけ示してください。
1問につき3分以内で分かりますか？
3秒以内でできたら上級者です！



01 △白番



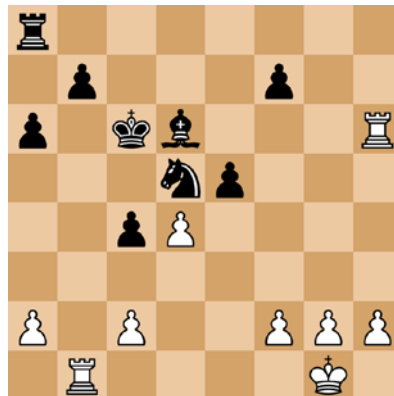
02 △白番



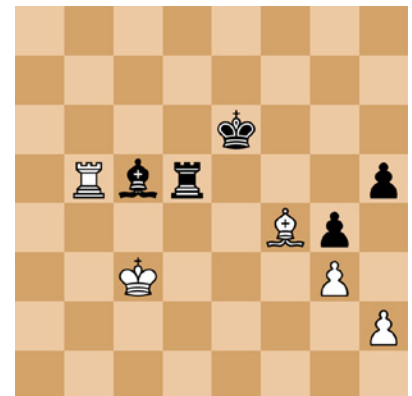
03 △白番



04 △白番



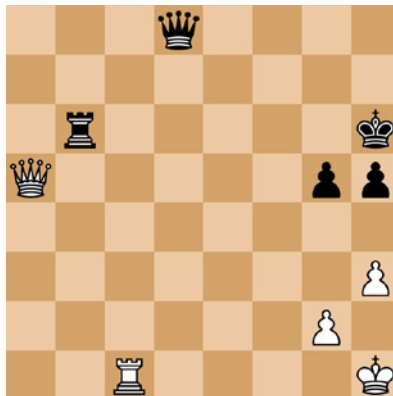
05 △白番



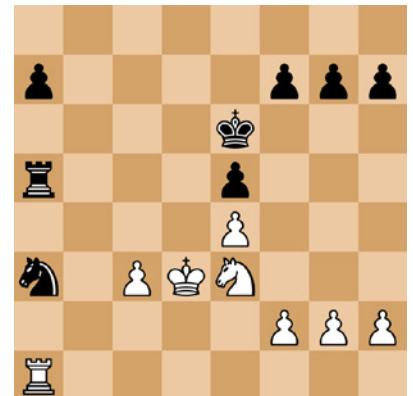
06 △白番



07 △白番



08 △白番



Level 1

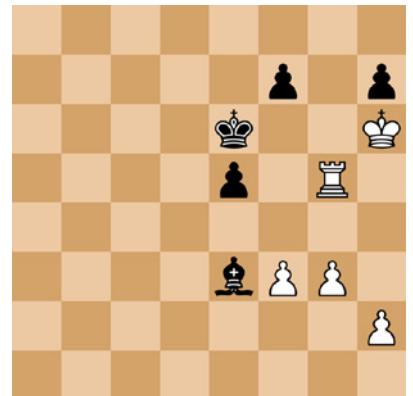
ここから黒番です



09 ▼黒番



10 ▼黒番



Level 2

発展問題 △白番



マスターどうしのゲームです。
白のビショップはピンされていて絶体絶命に見えますが、妙手があります。

☞ 正解は 32 ページ

Tokai Open and Chubu Rapid Open Tournament Report

By Scott, Tyler

Tyler is a Canadian English teacher who currently resides in Nagoya. Born in 1989, he learned the rules of chess from his father



Me, deciding how I want to take on the Caro-Kann

Here in Aichi, two important tournaments happened in the last several months: Tokai Open and the Chubu Rapid Open, the latter of which was FIDE rapid rated. I was quite lucky this year, managing to win both tournaments with a perfect score, and scoring my first over-the-board win against an IM in the process! In this article, I will analyze a couple of interesting games from each of the two tournaments.

Tokai Open

This tournament occurred on April 10th. It consisted of four rounds, with a time control of 30/30. Despite winning, none of my games were spectacular, so I decided to analyze a couple of interesting and instructive games from other players. This first game illustrates the dangers of going into a sharp theoretical line unprepared.

Makino, M – Okabe, Y

Tokai Open Nagoya (1)
Ruy Lopez, Anti-Marshall 8.a4 [C88]

1.e4 e5 2.Nf3 Nc6 3.Bb5 a6 4.Ba4 Nf6
5.0-0 Be7 6.Re1 b5 7.Bb3 0-0 8.a4

This seems to be

the most popular anti-Marshall line these days, as seen in the recent WC match between Nepomniachtchi and Carlsen.

8...d5!? Black plays the Marshall anyway! As far as I know, this is objectively risky for Black, but can be tricky for White to deal with in practice.

9.exd5 This move, playing the position in the spirit of a regular Marshall, is the most natural, but maybe not the best.

9.axb5!?

might be stronger objectively, and is worth looking at if you play 8.a4 from the White side.

9...Na5 9...Nxd5? 10.axb5+
10.Nxe5 10.Ba2!?

is an attempt to play it safe, but Black gets some play after 10...e4 11.Ne5 Nxd5

10...Nxb3



11.Nc6 11.cxb3 Bb7 12.Nc6 Bxc6 13.dxc6 is possible, but White's extra pawn doesn't seem to be worth much here. One possible forcing continuation is 13...Bc5 14.d3 Qd4 (14...Bxf2+!? 15.Kxf2 Qd4+ 16.Kg3 Rae8 17.Rf1 with decent practical compensation, is also possible.) 15.Be3 Qxb2 16.Bxc5 Qxa1 17.Bxf8 Rxf8∞

11...Bg4 12.Nxd8? As far as I know, 12.f3 is the best move according to theory, and the only one that keeps the balance. In the game, Black quickly gets the upper hand on the board, and a large time advantage to boot, due to his superior knowledge of this line.

12...Bxd1 13.Nc6? 13.cxb3 Bxb3 14.Rxe7 Rfxd8♯ was the only good continuation, according to the engine. Black is better, but White is still in the game for now.

13...Nxa1+ Black simply grabs an exchange, and White isn't able to prove compensation for it. The rest of the game is given without comments, as Black converts his advantage fairly easily.

14.Nxe7+ Kh8 15.Rxd1 Rfe8 16.Nc6 Nxc2 17.d4 Nxd5 18.Bd2 Re6 19.Ne5

Tokai Open and Chubu Rapid Open Combined Tournament Report

By Scott, Tyler

f6 20.Nf3 b4 21.h4 Re4 22.Bc1 Rae8
23.Nbd2 Re2 24.Nb3 Ne1 25.Nh2 Nb6
26.Nc5 a5 27.Nf1 Nc2 28.Bf4 Nd5
29.Bc1 Re1 30.Rxe1 Rxe1 31.Nb3
Nxd4 32.Nxd4 Rxc1 33.g3 Rb1 34.b3
c5 35.Ne6 Rxb3 36.Nxc5 Rc3 37.Ne4
b3 38.Nxc3 Nxc3 39.Nd2 b2 40.Kf1
b1Q+ 41.Nxb1 Nxb1 42.Ke2 Nc3+
43.Kd3 Nxa4 44.Kc4 Nb6+ 45.Kb5 a4
46.Kb4 h5 47.Kc3 a3 48.Kb3 Nc4
49.f3 g5

0-1

This next game features a thematic pawn sacrifice that gives Black great play and unopposed control of the dark squares.

Abe, T – Takashima, B

Tokai Open Nagoya (1),
KID Saemisch Variation, Panno
Variation [E84]

1.d4 Nf6 2.c4 g6 3.Nc3 Bg7 4.e4 d6
5.f3 0-0 6.Be3 Nc6 7.Nge2 a6 8.Qd2
Rb8 9.Ng3? This move blocks
White's g-pawn and weakens the
important d4-square.

A better way to play is to fight
against Black's ...b5 break. One way
to do this is 9.Rc1 Bd7 10.Nd1
planning to meet 10...b5?! with
11.c5!

9...e5! 10.d5 Nd4! This thematic
pawn sacrifice is completely correct.
If White accepts the pawn, Black
will get a tremendous bishop on g7
as compensation.

11.Bxd4?! 11.Nge2 is safer, but
requires White to admit that putting
the knight on g3 earlier was a
mistake. It is psychologically easier
to keep going forward instead of
admitting that one was wrong
earlier!



The tournament winners from left to right: Takashima Bunji, Scott Tyler, Mizumoto Takahiro

11...exd4 12.Nce2 c5 If left
unharmd, the pawn on d4 is a huge
thorn in White's side, so he is forced
to capture en passant. Unfortunately
for him, this opens the b-file for
Black.

13.dxc6 bxc6 14.Nxd4 Qb6 15.Nb3



Black's next move may not have
been the best, but his compensation
should be quite obvious by now in
any case.

15...d5!? 15...Nd7 heading to c5,
is probably the best way to increase
the pressure. White should not grab
d6 in positions like this one, as he
will just fall further behind in
development and open more lines
for Black's pieces.

16.c5 Qc7 17.0-0-0 This looks really

dangerous with Black's pieces
coordinating on the b2-square.

17.Be2 dxe4 18.fxe4 Ng4! (18...Rd8
19.Qa5! Qe7 20.0-0 looks just
about tenable for White, though
still unpleasant.) 19.0-0 Be5 looks
dangerous for White. Black
completely dominates the dark
squares.

17...dxe4 18.fxe4 Be6 19.Bxa6? Qa7
20.Qe2 Bxb3 21.axb3 Rxb3+ Black's
attack is simply too strong for White
to deal with. Notice how the knight
on g3 has done absolutely nothing
the entire game, and is too far away
from the queenside to help in the
defence.

22.Qc4 Rfb8 23.Rd2? Bh6 24.Rhd1
Rxb2 25.Ne2 From here, the score
notes were too unclear to be read.
White is lost in any case and went
on to lose shortly.

0-1

Chubu Rapid Open

This tournament occurred on July
10th. It consisted of 5 rounds, with

Tokai Open and Chubu Rapid Open Combined Tournament Report

By Scott, Tyler

a time control of 25/10. Players from many different parts of Japan came to participate, including Olympiad team members IM Kojima-san and CM Tu-san. This first game illustrates how a player can drift the wrong way when he or she has a good position, but lacks an obvious plan. I can certainly empathize with Okabe-san here, as I have lost many good positions myself!

Okabe, Yuma – Tran Thanh, Tu

Chubu Rapid Open (2)

Nimzowitsch Defence [B00]

1.e4 Nc6 2.Nf3 d6 3.d4 Nf6 4.Nc3 g6

This is one of Tu-san's favorite setups against 1.e4. As we will see, however, it is a bit dodgy if White comes to the board prepared.

5.Be3 Bg7 6.Qd2 a6 7.d5!? Not the only way to play, but a logical one that challenges Black's setup by taking even more space in the center.

7...Ne5!? 7...Nb8 would keep Black's structure intact, but it undevelops a piece and leaves White clearly better after almost any logical move.

8.Nxe5 dxe5 9.f3 h5 10.h4 It seems a bit early to commit to this move, as Black hasn't castled kingside yet and might not do so.

10.0–0–0 looks a bit more precise. One possible continuation is 10...b5 11.Kb1 e6 12.Be2 exd5 13.exd5 Bb7 14.a4! b4 15.Ne4 Nxd5 16.Bg5 f6 17.Nc5 Bc6 18.Bc4 fxe5 19.Ne6 Qd6 20.Bxd5 Bxd5 21.Qxd5 Qxd5 22.Nxc7+ Kf7 23.Nxd5±

10...Bd7 11.a4 Qb8 Black removes his queen from the d-file, probably

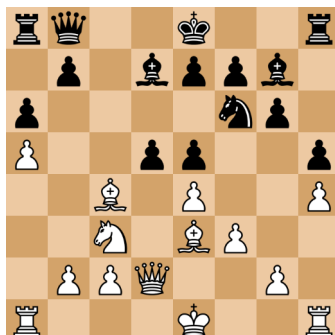
to make breaking with ...c6 or ...e6 safer. In any case, his lack of space and doubled e-pawns make his position quite uncomfortable to play, at least to my eye.

12.a5 c6 13.Bc4 13.dxc6 Bxc6 14.Bc4 0-0 15.0-0± also looks quite nice for White, who has a space advantage, a better pawn structure, and the potential to maintain control of the d-file due to an eventual Bb6, controlling the d8-square.

13...cxd5

How should White recapture?

14.Bxd5 14.Nxd5! was even better. Black is close to positionally busted here.



14...Nxd5

a) 14...Qd6?! 15.0–0–0 Bc6 (15...e6?? 16.Nxf6+) 16.Nb6 Qxd2+ 17.Rxd2 Rb8 18.Rhd1±;

b) 14...Qc8? 15.Nb6 Qc7 16.Nxa8 Qxc4 17.Nb6 Qc7+- White is just up an exchange with a dominating position.;

c) 14...Be6 15.Qb4! Bxd5 16.exd5 0–0 17.Qxe7±;

15.Bxd5 Qc7 (15...Bc6 16.Bxc6+ bxc6 17.0–0–0 0–0 18.Bb6±; 15...e6 16.Bb3 Bc6 17.0–0–0±

Black's bishops don't have any targets, and the b6-square continues to be a problem.) 16.Bb6 Qc8 17.Ra3! followed by Rc3, with ongoing problems for Black on the queenside dark squares.

14...Qc7 15.Bb6 Qc8 16.Be3 16.0–0–0?! looks inaccurate, due to 16...Bh6 17.Be3 Bxe3 18.Qxe3, but even without the bishops, White maintains a slight edge.

16...Bc6 17.Bb3 17.0–0–0 Bxd5 18.Nxd5± was simple and good for White. With the dark-squared bishops on the board, it is tough for Black to equalize, nevermind the weak b6-square and doubled e-pawns.

17...0-0 18.Bh6? Sometimes we have a good position, but lack a clear plan. In this case, trading off Black's worst piece for one of White's best ones is clearly the wrong way to go, and perhaps spurred by time pressure, White begins to lose his way.

18.Na4!? looks good. For instance 18...Bxa4 19.Rxa4 Rd8 20.Qe2±; 18.0–0–0! was simple and good. Black cannot take control of the d-file because of Bb6. For instance, 18...Rd8 (18...Qc7 19.Bb6) 19.Qe2 (19.Qxd8+ Qxd8 20.Rxd8+ Rxd8 21.Na4 Bxa4 22.Bxa4± is also good.) 19...Qc7 20.Bb6±

18...Kh7 19.Bxg7? It wasn't too late for White to change his mind with 19.Be3±

19...Kxg7 20.Qg5?! This move doesn't really do anything. White needs more than just a queen to launch an attack.

20...Qc7 21.g4 21.Ne2 Rad8 22.Ng3

Tokai Open and Chubu Rapid Open Combined Tournament Report

By Scott, Tyler



The players hard at work during the 2nd round game of the tournament

e6 $\bar{7}$ doesn't lead anywhere either.

21...Rad8 $\bar{7}$ 22.Ne2 Rh8 23.Ng3 hxg4 24.h5 24.fxg4? Nxe4 25.Nxe4 (25.Nf5+ Kf8--+) 25...Bxe4 26.0-0? Qc5+ 27.Kh2 Rxh4+! 28.Qxh4 Rd2+-+ leads to an eventual mate, though I am not sure either player would have found it with little time on the clock.; **24.Nf5+ Kf8 25.Nh6** isn't fast enough. Black can just play **25...gxf3 26.Nxf7 Nxe4 27.Qxe5 Qxe5 28.Nxe5 f2+ 29.Ke2 Ng3+-+**

24...gxf3 25.Nf5+ at first glance, this looks a bit scary, but it doesn't lead anywhere.

25.Bxf7 looks dangerous, but leads nowhere after **25...Kxf7 26.hxg6+ Kg8** avoiding **Nf5+ 27.Rxh8+ Kxh8 28.Nf5** It looks like White is about to deliver mate, but Black's counter attack comes just in time. **28...f2+ 29.Ke2 Bb5+ 30.Kf3 Be2+! 31.Kxe2 Qxc2+-+**

25...Kf8 26.Nh6 f2+ 27.Kf1 Nxe4 28.Qe3 Nd2+ 29.Kxf2 Nxb3 Here White lost on time, but the position is lost in any case.

0-1

This next game is my win against Kojima-san. It features a long theoretical variation that leads to a slightly better ending for White. I think the point here is that, even if a variation leads to no tangible advantage on the board, it can give the prepared player a big advantage psychologically and on the clock. Under pressure, even strong titled players are capable of losing positions that should otherwise be defensible. As many strong players have said: "the position is drawn, but the game is not."

Scott, Tyler – Kojima, Shinya
Chubu Rapid Open Round (5)
Two Knights Defence [C58]

1.e4 e5 2.Nf3 Nc6 3.Bc4 Nf6 4.Ng5 d5 5.exd5 Na5 6.Bb5+ c6 7.dxc6 bxc6 8.Bd3 Ng4!? I've never really understood why people choose this line, as it seems to lead by force to a slightly better risk-free ending for White. That said, if White is not careful early on, Black can sometimes just win the game straight out of the opening...

9.Ne4 f5 10.Be2 h5 11.h3 11.Nec3? Bc5 12.0-0?? Qh4+- is an example of how White can lose straight away if he is not careful.

11...fxe4 12.hxg4 Bc5 13.Nc3 13.b4 Qd4 14.bxc5 0-0 15.0-0 Qxa1 16.Nc3 is the other main direction here, and might also be better for White, but the line played in the game is simpler.

13...Qd4 14.0-0 0-0 15.Qe1 hxg4 16.d3 exd3 17.Bxd3 Rxf2 17...g3 is a playable, though slightly inferior, alternative.

18.Qxf2 Qxf2+ 19.Rxf2 g3 20.Ne4 gxf2+ 21.Kf1 Bd4 21...Bb6 22.b4 is the alternative, but White's pieces seem to be better-placed in that line, and Black has long-term problems with his structure.

22.Bd2 Nb7 23.Bc3 Be6 From here my theoretical knowledge ended, and I started to think on my own. Despite my opponent knowing the theory up until around here, he played the opening quite slowly, giving me a significant time advantage.

Tokai Open and Chubu Rapid Open Combined Tournament Report

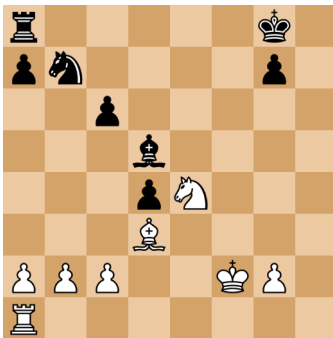
By Scott, Tyler



The tournament winners from left to right:

Okuno Rion (4th), Tran Thanh Tu (3rd), Scott Tyler (1st), Kojima Shinya (2nd)

24.Bxd4 exd4 25.Kxf2 Bd5



26.Re1

26.Rh1 might have been better. It was difficult to decide where to put the rook during the game. 26...Re8 27.Ng5 Nc5 28.Bh7+ Kf8 29.Rh4 d3 30.cxd3 Bxa2[∞] is one possible continuation, though I am not sure if it is anything special for White.

26...Kf8 27.Rh1 Re8 28.Rh8+ 28.Rh4!? could be considered.

28...Kf7 I spent a bunch of time here thinking about what to do, and ultimately traded the rooks as I figured at best my opponent would hold a draw, and that I had no risk of losing.

29.Rxe8 29.Rh4!? might be best, keeping some pressure, though with care, I think Black is okay.

29...Kxe8 30.b3 Ke7 31.Kg3 At this point, I figured the game would end in a draw once some minor pieces got exchanged, but in time trouble, my opponent started to go wrong.

31...Bxe4?! This is probably where Black first started to go wrong.

31...Nd6 looks safer, and is probably a draw.

32.Bxe4 Around here, I stopped recording my moves, due to time trouble, so I apologize if there are any move-order mistakes in the remainder of this game.

32...Kd6 33.Kf4 Nd8? This was probably the losing move, believe it or not. Now the white king easily puts pressure on the g7-pawn.

33...Nc5! 34.Bd3 Nd7 35.Kf5 Ne5 keeping the white king out of g6, was probably best. The engine still prefers White here, but I am not sure how to make progress. 36.b4!?

stopping ...c5, may be the best try. 36...Kd5 37.g3 Nd7 38.Kg6 This is quite tricky for Black to defend, and with best play, I am not sure he is even able to do so. For instance 38...Nf6 39.a3 Ke5 40.Kf7 (40.Kxg7!? Nh5+ 41.Kf7 Nxg3 42.Ke7 might give White some chances, due to his king invading the Black position, but in principle I would prefer to not lose the g-pawn.) 40...Kd5 41.Be2! controlling h5 41...Ke5 42.Bf3 g5 43.Bxc6±

34.Kf5 c5 35.Kg6 Ne6 36.g3+- Suddenly the g7-pawn is in trouble, due to the threat of Bd3-c4 or Bf5, attacking its defender.

36...Ke5 37.Bd3 a5 38.a4 Nc7 38...Kd6 39.Bc4 and Black loses the g7 pawn.

39.Kxg7 I don't remember what happened from here, but the combined threat of the g-pawn, in conjunction with White's king invading the black position from the 7th rank, caused my opponent to resign a few moves later.

1-0

Overall, two more great tournaments here in Nagoya! As always, a big thank-you to the tournament director, Horie-san, for organizing the events.

The next major tournament in Nagoya is the Nagoya Open, scheduled for November 13th. I hope to see you there!

タクティクス・ジム 解答

01 1.Nxe4

02 1.Bh6

03 1.d5

04 1.dxe5

05 1.Kc4

06 1.Rc1

07 1.Rc6+

08 1.Nc2

09 1...Nf5+

10 1...f6

発展問題 1.Qf4+ Ke7 2.Qxd6+

出題は 25～26 ページ

編集部

木下奏子

神田大吾

ごまめ

黒坂雄基

山内美加

原島もも

真鍋浩

山田明弘

(順不同)

発行

日本チェス連盟

(一般社団法人 National Chess Society of Japan)

本誌に掲載された写真、イラスト、記事、棋譜の解説等について、無断転載および無断配布を禁止します。著作権はそれぞれのクリエイターにあります。

ご意見・ご感想などはjapanchess.editor@gmail.comまでお寄せください。